

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



「保護者の心をひらく相談」



1 保護者のことば

家ではなんの問題もない。しかし、一歩外に出て、社会とコンタクトを取るときに、あー普通じゃなかったと思う。

同居している義父母は、親戚に孫が自閉症であることを伏せている。だから私は、冠婚葬祭には出席したことがない。

「大丈夫」の一言を求めて東京の有名な大学病院に行ったが、結果は自閉症と診断され、生きる希望を失った。

- ・保護者と同じ経験をしていないので、100%理解し合えることは難しい。しかし、100%に近づく努力をすることは可能である。

2 保護者の揺れ動く思い

- ・障害を否定する気持ちと肯定する気持ちがコインの表裏のように共存し、状況に応じてどちらかの感情が起こる。障害受容の過程は個々に異なり、らせん階段を登るように、行ったり来たりしながら適応へと進む。保護者のそのときの心情に寄り添うが大切！

3 保護者の4つのハードル（ハードルは後に行けば行くほど高くなる）

第1のハードル：障害が発見されたとき 第2のハードル：就学のとき

第3のハードル：卒業のとき

第4のハードル：親が高齢者になったとき

- ・「ハードル」は移行期と重なるので、移行期支援を充実させて「ステップ」に変える。

4 相談のポイント

(1) 面談中の保護者の様子

- ・一方的に話すことが多い
- ・一人で悩みを抱えている
- ・自分を責める傾向が強い
- ・障害を受けいれたくない
- ・相談機関のよい評価にすがりたい
- ・夫婦であっても意見が違ふことがある（父親は楽観的 母親は悲観的に考える）
- ・たくさんの情報（相談機関や就学先）を知りたいと思っている 等

(2) 伝わりにくい4つの理由

- ①保護者に正しく理解されていない 専門用語を使っていないか 回りくどい言い方 まとまっていない
- ②保護者が理解したくない 言われなくても分かっている、理解して対応してきたという疲労感
- ③子どもの状態像の理解に差がある 子どもは活動する場所、人、内容によって表情が異なる
- ④保護者が発達障害そのものを理解できていない 発達障害は見えない障害だから分かりづらい

(3) 面談で配慮すること

- ・事前に面談の内容やメンバーを伝え、複数で対応する（学校の連帯感が安心感につながる）
- ・考え方が違うことを前提に、少しでもかみ合う部分を見つける（共感できる話題を探す）
- ・困り感を共感しながら肯定的な表現をする（子どものよいところや保護者の頑張りを伝える）
- ・就学や進路と結び付ける（見通しがもてる情報提供に努めて、子ども理解を促す）
- ・細かい記録は取らず、あとで整理する（目や身体で能動的に聴く態度を見せる）
- ・聴き方の「あいうえお」を心掛ける

アイコンタクト・うなずく・笑顔で・復唱する（オウム返し）

「理解は偶然に起こり、誤解は必然に起こる」→伝わらないことで起こる誤解・混乱を回避しよう！